

令和3・4年度始良・伊佐地区研究協力校「学力向上」 始良市立松原なぎさ小学校研究公開

1 研究主題

主体的に考え、他者と協働して学びを高める子どもの育成
～「書く活動」に着目した学習指導を通して～

2 研究発表

始良市立松原なぎさ小学校では、令和3年度から地区研究協力校として「主体的に考え、他者と協働して学びを高める子どもの育成」を研究主題に研究・実践に取り組んできました。

研究発表では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びと関連した言語活動に焦点を当て、各教科の特性や発達段階を意識した「書く活動」の取組が紹介されました。

研究内容及び具体的な取組は、以下のとおりです。



【研究発表の様子】

(1) 「書く活動」に着目した授業づくり

- ア 各教科の目標及び指導事項と「書く活動」との関連の明確化
- イ 「書く活動」を位置付けた学習過程の整理
- ウ 「書く活動」を支え、思考を促すノート指導

(2) 「書く活動」を支える環境整備

- ア 教室、廊下掲示の工夫
- イ ICTの活用

3 公開授業

第2学年国語科の授業では、上渕久美子教諭が「スーホの白い馬」の全14時間の7時間目を行いました。登場人物の気持ちを読み取るための手段として、「書くこと」を効果的に取り入れた授業でした。また、2年生の子供たちが考えるために、発問や板書、動作化などの工夫がたくさんありました。



【第2学年研究授業】

第4学年算数科の授業では、藤山茜教諭が「分数」の全9時間の6時間目を行いました。ICTを活用することで、全員の考えを可視化することができ、より多様な考えに触れることで、互いに考えを聞いて、自分の考えを深めている姿が見られました。また、タブレットをまさに文房具の一つとして使いこなしており、これまでの積み重ねが感じられました。



【第4学年研究授業】

第6学年社会科の授業では、原口裕治教諭が「地球規模の課題の解決と国際協力」の全8時間の5時間目を行いました。地球環境を守るための取組の理由や目的について調べ、その後の交流でプラスチャートを活用して自分の考えと友達のことを比較したり、関連付けたりしてよりよい考えを導くことができました。また、なぎさペンタゴンを活用し、多様な視点で学習の深まりを自覚していました。



【第6学年研究授業】

4 分科会

分科会では、公開授業の2・4・6年に分かれて、ワークショップ型の研究協議が行われました。それぞれ、参加者の公開授業を基にした提案検討がなされ、「書く活動」における教師の具体的な言葉かけや可視化についての意見交流がなされました。研究協議の中で出された意見の主な内容は、以下のとおりです。



【分科会の様子】

【2年分科会】

- 自分の考えを書くためには、子供たちが書く内容や書き方をしっかり意識していないと書けない。日頃の積み重ねがしっかりとできていた。
- 交流は活発であったが、他者の考えを生かすところまではできていなかったのではないか。

【4年分科会】

- 学習に見通しをもって取り組むことができている。また、他者の考えを生かす書く活動の交流では、比較することで学びが深まっている。
- 教科の特性に合わせて、何をどの程度書かせるのかを指導者が明確にしておくことが必要である。

【6年分科会】

- 鍛えられている子供たちである。書くスピードが速い。教科書から読み取る力があり、自分の言葉で書くことができていた。
- 社会の授業では時間が足りなくなる。どうやって学びの時間を確保するか、ICTの効果的な活用を検討する必要がある。

Googleフォームに寄せられた参加者の感想の一部です。

- 学びの多い授業でした。学校で共通実践されている結果が、子供たちの姿に表れていました。
- 公開授業は、指導力はもちろんですが、日頃の学級経営が一番だと思います。日頃の学級経営が公開授業での素地となっているのは過言ではないと思います。丁寧な指導の在り方も大変勉強になりました。
- 今後、書く活動に取り組むときに、すぐにできるような実践で、ぜひ参考にしたいと思う授業でした。特に、視点を与えて書かせたり、キーワードを用意して書けそうなものを選ばせたりと、書くことが苦手な子供にも取り組みやすいものだと思います。